

チェコスロヴァキアにおける1918年と1968年

2018年は、1918年の第一次世界大戦終結直後のチェコスロヴァキア独立から100周年、また、1968年のチェコスロヴァキアでの「プラハの春」改革運動およびそれがソ連等ワルシャワ条約機構軍によって弾圧された「チェコ事件」から50周年にあたります。

この記念すべき年の10月28日、まさにチェコスロヴァキア独立から100年目のその日に、チェコの歴史や自然の題材に祖国愛をこめたスメタナの作品「我が祖国」全曲を演奏し、そのことを通じて、広く中央ヨーロッパの歴史への関心を喚起できればと思っています。

■チェコスロヴァキアの独立

20世紀初頭、チェコ民族運動の高まりのなか、カレル大学哲学部教授であったトマーシュ・ガリグ・マサリク(父がハンガリー領出身のスロヴァキア人、母がモラヴィア出身のチェコ人)は、その指導者として活動するようになりました。

第一次世界大戦が勃発すると、オーストリア＝ハンガリー二重君主国内のスラブ系民族運動の激化を背景に、マサリクはパリに亡命し1916年2月「チェコスロヴァキア国民会議」を組織し、君主国からの独立、共和国の樹立を目指しました。

スロヴァキア人の血が流れていたマサリクは、ハンガリー領内に居住するスロヴァキア人とチェコ人を統合した「チェコスロヴァキア民族」の創出を提起したのでした。

1918年、オーストリアの敗北が濃厚になるなかで、チェコスロヴァキア国民会議はウィルソン米大統領の「民族自決」の原則に従って、連合国によって9月までに正式に将来のチェコスロヴァキア共和国政府と承認されました。

そして同年10月28日、チェコスロヴァキア国民会議と連携していた、国内の組織「国民委員会」がチェコスロヴァキアの独立を宣言し、権力を掌握、チェコスロヴァキアが誕生しました。チェコスロヴァキア共和国は新憲法を制定し、11月に初代大統領にマサリクを選出します(チェコスロヴァキア第一共和国)。



チェコスロヴァキア共和国独立宣言書に署名するマサリク大統領

■「プラハの春」改革運動とチェコ事件

1948年に社会主義国となったチェコスロヴァキアでは、経済の停滞と言論の抑圧などに対する不満が強まっていました。そうしたなか、特に文学者などの知識人、学生の中から民主化と自由化を望む声が強まり、政府批判が高まりました。

1968年春、チェコスロヴァキア共産党第一書記にドブチェクが選任され、改革派を登用して民主化に乗り出しました。まず3月には検閲制度を廃止して言論の自由を保障し、ついで4月には新しい共産党行動綱領を決定して「人間の顔をした社会主義」を目指すことが打ち出されました。これを受けてチェコスロヴァキア内の議論は盛んになり、新たな政党の結成の動きも現れ、プラハには西欧風の諸文化が大量に開花しました。

また6月には70人あまりの知識人が署名して「二千語宣言」が発表され、ドブチェク路線を強く支持し、旧来の体制に戻ることに強い反対が表明されました。東京オリンピックでも金メダルをとった体操選手のチャスラフスカもこの宣言に加わりました。

これら1968年春の一連の動きを「プラハの春」と言います。

この改革の動きに対して、ソ連のブレジネフ政権は社会主義体制の否定につながると警戒し、介入を決意、1968年8月20日にソ連軍を主体とするワルシャワ条約機構5カ国軍の15万が一斉に国境を越えて侵攻し、首都プラハの中核部を占拠してドブチェク第一書記ら改革派を逮捕、ウクライナのKGB(国家保安委員会)監獄に連行しました。

これがチェコ事件と言われるもので、全土で抗議の市民集会が開かれ、またソ連の実力行使は世界的な批判を浴びました。スヴオボダ大統領はソ連に乗り込み執拗にドブチェクらの釈放を要求したため、ソ連は彼らの釈放は認めましたが、ソ連軍などの撤退は拒否しました。

ドブチェクは復歸したものの、もはやソ連と妥協せざるを得ず、検閲の復活などを認めました。なおも不満な市民と学生は、翌1969年も断続的にデモヤストを行ったので、ソ連はさらに圧力を加え、4月にドブチェクを解任、代わってフサークが第一書記に就任し、その後は改革派は排除されフサークによる、いわゆる「正常化」と称する改革否定の後戻りがなされました。「二千語宣言」に署名したチャスラフスカ等は、この後不遇の時代を過ごすことになります。

その後1977年、劇作家ハヴェルらを中心に、再び民主化と自由化を求める声が強まり、「憲章77」が発表されましたが、当局による言論取り締まりは続き、西欧諸国でもチェコスロヴァキアの人権抑圧が批判されるようになりました。

この長い民主化運動が前史となり、ようやく1989年11月、共産党一党独裁体制が崩壊し、チェコスロヴァキアの民主化が達成されました。



1918年のオーストリア＝ハンガリー二重君主国の解体

Má Vlast Filharmonie

「チェコスロヴァキア独立100周年記念『我が祖国』特別演奏会」のために編成されたオーケストラ。神戸に拠点を置くアマチュアオーケストラである六甲フィルハーモニー管弦楽団の団内指揮者で、ハプスブルク君主国およびチェコの政治史を専門の研究領域とする森康一の呼びかけにより、趣旨に賛同し集まった関西一円のオーケストラ奏者によって構成される。

“Má Vlast”とは、全6曲から成るスメタナ作曲の連作交響詩「我が祖国」のチェコ語による原題である。「ヴァルタヴァ(モルダウ)」や「ヴィシェフラッド」等の有名作品はしばしば演奏会にも取り上げられるが、全曲が演奏される機会は珍しい。

2018年という、チェコとスロヴァキアにとって特別な年に、この名作を演奏することに意欲を持って集まった奏者達の熱い演奏にご期待ください。

